

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和元年11月28日

事業所名 運動療育スタジオspark豊中少路

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		待合室も確保しています。	
	2 職員の配置数は適切である	○		必ず児童1名に対し1名以上の職員を配置しています。	療育の効果をより高めるために、1名以上の配置を望まれるケースがありました。可能な限り調整を行い、アシスト役として無理のない範囲で保護者への参加(ベアトレ推進)も進めて参ります。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	トイレは入居しているビルの共用トイレを使用の為、保護者、職員が必ず同行しています。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全員で毎営業日に30分以上のミーティングを開催し、環境面では5S活動を推進しています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後、検討して参ります
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		スパーク協会による現場OJT年5回、その他事業所内療育研修を実施しております。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントと個別支援計画とは別にも毎回ニーズ、課題、本日の療育計画という形で、療育のPDCAサイクルをまわしています。	児童の状態に応じて、保護者と連携しより密な情報交換を強化し、課題分析できた計画になるように進めて参ります。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		スパーク協会独自のアセスメントシートがあり、心、体、特性傾向を確認しています。	今後、より深いものになるように改善・改良を進めて参ります。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		毎回ニーズ、課題、本日の療育計画という形で、療育のPDCAサイクルをまわしています。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		発達段階を大きくは9段階に分け、段階に応じた療育内容を検討しています。	個別療育を中心としていますが、今後は発達段階に応じて小集団療育の強化を図ります。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		季節と職員の配置状況に応じて野外での運動を企画しています。	豊富な感覚刺激を得るために、屋外療育機会を増やして参ります。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		実年齢や体格だけで判断せず、発達段階に応じて個別より開始し、小集団療育参加を目標にして作成しています。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎営業日に30分以上の療育ミーティングを開催しています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		担当療育士の事務時間や終礼時間で振り返りを実施しています。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		独自のサービス提供記録にて実施しています。	今後、児童の近況と保護者のニーズを細かくヒヤリングして、より効果的な療育を目指します。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		チームで検証し見直しを実施しています。	今後、より具体的な評価ができるように、目標設定の具体化、定量化を進めて参ります。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者より必要に応じて伺っています。	送迎を実施しておらず、保護者同伴としているため必要最低限のヒヤリングしていますが、特に年間行事については確認し、参加、成果につながる支援を目指します。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		整形外科については協力医療機関有り。	医療ケアを行える従業者(医師・看護師等)を配置していないため、対象者の受入はありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者を通じてヒヤリングしています。	今後、必要に応じて保護者の了解をとり、実施して参ります。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			これまで該当者がおられませんでした。引継ぎの記録はあるため、必要に応じて情報共有して参ります。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園に出かけた際に他の一般児童と関わりそうな場面では機会を作り、介入しております。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			今後豊中市で設置される通所支援事業所協議会に積極的に参加してまいります。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		基本的に保護者同伴のスタンスのため、毎回情報の共有を行っています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		基本的に保護者同伴のスタンスです。保護者の体調に合わせて療育に参加いただき、運動の必要性、関わり方、共に寝るポイントづくりのアドバイスを行っています。	保護者より『どこまで参加して良いのか』というご質問がありましたので、今一度ペアトレの目的と効果をお伝えし、参加しやすい環境をつくりたいです。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時の説明、掲示、報酬改定に合わせご説明させていただいております。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期面談以外にも、毎通所の際に実施しております。	まだまだこちらからの働きかけが不十分であり、保護者より気軽に相談できる環境ではないかと感じておりますので、保護者とのコミュニケーション機会を増やす様に努力して参ります。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		開業時には開催しましたが、積極的に機会をつくれておりません。	父母の会の実態把握に努め、当事業所に出来ることがあれば可能な限りの支援を検討致します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		全スタッフと業務終了時に、怪我、ヒヤリハット、苦情等の確認を行い、管理者より問題・課題解決に向けて面談(電話を含む)をさせていただいております。	過去に頂いたお声の多くは、療育士の質、療育の意図、空間の使い方についてがありました。質については均等化、底上げを図るべく研修を実施して参ります。療育の意図と空間の使い方については事前説明を徹底し、相互理解に努めて参ります。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		主には屋外療育企画の意図と情報発信、または実施内容を周知して参りました。	今後、ホームページ内にブログ、掲示板等を通じて、共有することを検討中です。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		契約書等の特に重要な内容は全てルビを表記しています。また必要な児童には絵カードを用意しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		開業時には市内の相談支援事業所様にも内覧会の案内やご説明をさせていただきました。	今後、民生委員・児童委員様との連携や、地域の行事参加など検討致します。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	職員向けのマニュアルは存在しますが、保護者向けの発信は行えておりませんでした。	今後、保護者向けの発信を検討します。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	土砂災害の避難勧告が発生しやすい地域であることから、風水害を中心にハザードMAPの掲示等を行いました。	今後、想定される災害の範囲を広げ訓練を行い、備蓄品についても検討します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	管理者と児発管で研修を受講し、全社員へ研修を開催しました。	虐待に至らないために、障がい特性への理解、関わり方(技術)を向上させるための研修を引き続き行うとともに、保護者様との面談、ペアレを通じ深めて参ります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	重要事項説明、契約書にて明記しております。具体的には安全のために危険行為に至りそうな場合、抱きかかえるなどの保護の範囲です。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	フェイスシートを作成し、ヒヤリングこそ実施しておりますが、食事、おやつを提供はありません。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハットがあった際には報告書を作成し、共有し・改善策を講じていますまた危険度の高い事例であれば現場検証と再発防止策を立てます。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。